あまにゅう

青森県青年海外協力協会(AOCA) 機関誌
平成20年6月号 (2008.6)
発行: 青森県青年海外協力協会事務局
編集担当: 大賀重樹(5－1 ホンデュラス)

途上国とのかかわりをより身近に

会長　　高山幸人(H5－1 ミクロネシア連邦 日本語教師)

通常総会が５月１０日（土）に実施され、今年度の事業計画が承認されました。いよいよスタートです。自分たちの任国を紹介する機会をどんどん作っていきますので途上国で感じたこと、写真、民芸品等々をこれらの機会にぜひ整理してみてください。これは県民のみなさんに普段のニュースではなかなか触れる機会がない途上国を身近に感じてもらえる媒体となります。

たＡＯＣＡ事業は同時に楽しさも追求していきたいと思います。ＡＯＣＡでやってみたいことなどみなさんのアイアデアとご参加を心よりお待ちしています。

地球のステージでミニ写真展を開催

熊谷彩子（１５－１　ブルキナファソ　稲作）

5 月 21 日（水）青森県立保健大学にて「地球のステージ」が行われました。保健大学は今年で 4 回目、千葉 OG が中心となり毎年開催しています。今年は「地球のステージ 4～果てなき回帰」を上映しました。ステージのはじめに桑山さんから「また青森に来ることができました。お金とか企画とか大変だと思うのですが、青森は保健大学はじめ、むつ工業高校、八戸聖ウルスラ学院と毎年呼んで下さり、本当にありがたいです」とおっしゃっていました。むつ工業高校での担当者は南澤 OB です。

年々、入場者も多くなり今年は約 200 名来場しました。受付横の JICA ブースも人でごったがえしました。今年は青森県 OBOG の活動写真を展示しました。今年入学したばかりの大学生や高校生もたくさん来て興味津々写真を見たり、アフリカのジュースを味見しながら協力隊経験者の体験談を聞いていました。また、上映の合間の語りに桑山さんから協力隊の紹介をして頂き広報はバッチリでした。上映後の保健大学のアンケートをみると「将来国際協力に関わっていきたいと思った」や「仲間とのつながりを大切にして一日一日を生きていきたい」など参加者が「地球のステージ」に出会ったことでそれぞれにいろいろなことを感じたようです。桑山さんは終了後、足早に会場を後にしました。22 日は宮崎で 24 日は仙台で講演、スケジュールはびっしり！みんなが桑山さんを待っているのです。私も日ごろいろいろと悩むことがありますが小さなことで悩んじゃいけないな、明日からまたがんばろうと勇気づけられました。そしてもっと一人一人の気持ちを考える人になりたいと思いました。お手伝い頂いた OBOG の皆さんありがとうございました。

会場は、多くの大学生・高校生が集まり大盛況

青年海外協力協会機関誌「あまにゅう」は、主に青森県出身の青年海外協力隊の参加経験者からなる団体の機関誌です。す。この機関誌を年４回定期的に発行することを通して、県内在住のＯＢ・ＯＧの情報交換をするほか、私たちの活動に興味のある方々に私たちの活動についての理解を求めるとともに、国際協力・国際理解の輪を広げることを目的として発行します。

「あまにゅう」の由来

「あまにゅう」は八甲田をはじめとした、高山にあり、きれいな白い花をさかせる植物です。

普段は人知れず咲いているのですが、一旦山に登ると大きくてはっきりと確認できる植物です。青森に住んで、世界のことを考えながら決して途上国への情熱を忘れない、そんな協力隊経験者と通じるところがあるようで、機関誌を作ったときにその名前を採用されました。

なお、名付け親は川村宏義氏「あまにゅう」の初代編集者です。

活動費用への寄付をお願いします。

AOCA では国際理解、協力に関する啓蒙、青年海外協力隊の広報などの活動をしています。活動をさらに充実したものにするための費用の寄付を募集します。 どうか温かい支援をお願いします。

同封の振込み用紙、またはATM 等で指定口座にお願いします。

青森銀行　大野支店
普通　1103060
名義：青森県青年海外協力協会

平成２０年度年次総会、とてもよい時間を過ごしました

中村信行（元-3　バングラデシュ　電子機器）

去る5月10日、11日に黒石市　伝承工芸館にて平成20年度 AOCA 通常総会が行われました。昨年度の事業報告、決算、本年度の事業計画、予算案とも承認されました。今回は少人数での総会になりましたが、議案の討議は例年通りみっちり行われました。

当日は JICA 東北から高城課長、JOCA から小嶋主任が来ていただき、JICA、JOCA の状況、方針等を説明いただきました。懇親会では何名かの方が駆けつけて下さり、AOCA の活動、派遣国の話題、それぞれの近況などに華が咲き、楽しいひと時を過ごしました。

今年度もいろいろな事業が計画されています。OV のみなさまが国際協力、国際交流に任国での経験を生かす機会がたくさんあります。今年度もみなさまのご協力をお願いいたします。

総会は、みっちり、懇親会もばっちり！

国際理解教育セミナーJICA エッセイコンテスト表彰式 IN 八戸

熊谷彩子（１５－１　ブルキナファソ　稲作）

3 月 20 日(木)、春分の日に「国際理解教育セミナー＆JICA エッセイコンテスト表彰式」を八戸市公民館にて行いました。まずは八戸南高校川村教諭（バングラデシュ OB）と八戸市立鮫中学校橋本教諭の合同ファシリテーターによるワークショップ**「貿易ゲーム」**を行いました。ほとんどの方が「貿易ゲーム」初体験だったようで、最後にこのゲームを通して感じた感想を各グループに発表してもらい、先進国と発展途上国の経済格差問題や環境問題についてみんなで考えました。今回は途中から橋本さんが NGO「ポコアポコ」として E グループ、F グループ(技術のない国)に対し技術支援という形で秘かに関わっていました。橋本さんの奥様は「ポコアポコ」というグループでフェアトレードを実施しています。また、山本綾子 OG からポコアポコの意味(スペイン語で少しずつ少しずつ)、またこの名前をつけることになった任国でのエピソードについて話をしてもらいました。彼女も「ポコアポコ」の一員として活動しています。

次に、八戸聖ウルスラ学院高校で活動している「ジャンボ国際交流部」に活動発表をして頂きました。ジャンボ国際交流部は、**「THE WORLD IN JAPAN～隣に生きる外国人～」**をテーマに身近で起こった外国人と日本人との事件をとりあげ、実際に事件があった工場を訪れインタビューを行い、それをもとに事件の原因を話し合い、コミュニケーションがよくなされてなかったのではないかと考えました。発表の最後には自分達が外国人と接する時に心がけることを参加者に伝えてくれました。それは、「国で人を判断してはいけないこと、人権を守ること、思いやりの気持ちをもつこと」です。多文化共生社会である青森県でも国籍に関係なく困っている人がいたらかけ寄る、そういうおもいやりの心をもつことの大切さを改めて認識させてくれました。

最後に **JICA エッセイコンテストで入賞者の表彰式と作品発表**を行いました。今回参加した高校生の中には、自分が中学生だったころ、このエッセイコンテスト表彰式に参加し、聖ウルスラ学院高校の生徒の作品を聞き感動し、八戸聖ウルスラ学院高校に進学し、今ジャンボ国際交流部員として活動している生徒がいたそうです。この事業を通して何か感じ行動している人が一人でもいることに私もうれしくなりました。

今回は協力隊 OBOG、教員、NPO 団体、協力隊 OG のお父様、高校生、大学生、さまざまな形で国際協力に関わっている人、興味をもって参加してくれた人がお互いに情報共有し自分達にできることを考えるセミナーになったと思います。一人一人がポコアポコ（ちょっとずつちょっとずつ）実行していけばきっと平和な世界がくるはず、そう思います。

《JICA エッセイコンテスト受賞者・受賞校》

中学生の部　【 入　選 】青森市立筒井中学校　3 年　神　由希子さん　「見えない幸せ」

【 学校賞 】つがる市立車力中学校

青森市立浦町中学校

青森市立筒井中学校

高校生の部　【 入　選 】八戸聖ウルスラ学院高等学校　3 年　大久保　早織さん

「『はっ！』とした。そして気づいた、私にできること。」

【特別学校賞 】青森県立むつ工業高等学校

青森県立青森商業高等学校

ＪＩＣＡキャラバン隊表敬訪問

渡辺淳一（43－3 ラオス 家畜飼育）

社団法人 青年海外協力協会（JOCA）では、青年海外協力隊の応募者拡大支援事業の「全国応募促進支援キャンペーン」の一環として、キャラバンカー2台による全国自治体、教育機関等の表敬訪問をこの3月に東北と九州から開始しました。東北キャラバン隊はNPO法人 山形県青年海外協力協会（YOCA）がJOCAから受託し、東北各県を巡回していますが、本県では去る4月22日（火）～24日（木）にまず手始めに津軽地方の表敬訪問を実施しました。3日間ともYOCAの高橋岳生・高橋史顕両OVの東北キャラバン隊員に渡辺が随行して実施しましたが、黒石市では山田広治さん（9-3 ボツワナ）、弘前市・五所川原市では藤村俊作さん（50-4 マラウイ）、板柳町では堤司さん（15-1 ホンデュラス）、鰺ヶ沢町では中村信行さん（1-3 バングラディシュ）、そして県庁・教育庁・青森市・弘前市では熊谷彩子さん（15-1 ブルキナファソ・JICA青森デスク）のOVの皆さんが同行してくれました。矢張り地元のOVが同行してくれると、訪問先の対応が非常に良好なことを感じました。

特に黒石市の山田OVは、以前鳴海市長と新春対談をしている旧知の間柄でもあり、他の黒石市出身隊員のことも話題となり、大いに盛り上がりました。「今年度のAOCAの総会は黒石市の伝統工芸館で開催し、板留温泉に宿泊しますよ」と言ったところ、市長は非常に喜ばれて「1本届けなければ…」との話もありましたが、残念ながら実現しませんでした。また、五所川原商工会議所の藤田専務理事からJOCAとして「たちねぶた」の参加を勧められました。引き手として30人位参加してくれれば、協力隊のPRも可能とのことです。そして二人の高橋隊員を案内して弘前公園の満開の桜を堪能し、夜はホテルで「ふるさと地球人」を見てもらったところ素晴らしい番組だと感激し、山形への帰着が遅れるのもかまわず、熊谷さんにお願いして全部をコピーして行きました。

今後キャラバン隊は、AOCAの行事（八甲田丸フェスタ・新町ふれあいフェア・生涯学習フェア等）に合わせて来青して街宣活動するとともに、下北・南部地方の自治体等の表敬訪問を行うこととなっております。終日の訪問になると思いますがスケジュールが決まり次第お知らせしますので、訪問先の市町村在住OVの皆様には是非同行してくださるようお願いいたします。

ＪＩＣＡ国際協力写真パネル展を開催

大賀重樹（５－１ ホンデュラス 小学校教諭）

２月２４日（日）に私の念願でもあった国際協力パネル展が、青森市のアウガで開催されました。

年末からJICA帰国専門家連絡会の方やAOCAのメンバーで準備を進め、やっと開催にこぎ着けました。

会場には所せましと展示物がありました。ちなみに、

○世界各国で協力隊員が体験した「？」から選んだ１０枚の写真がヒントの「世界の不思議クイズ１０問」
○世界の民芸品・民族衣装の展示
○青森県からどこの国に派遣されたかわかる世界地図
○県内のどの市町村から派遣されたかわかる青森県図
○隊員が持ち寄った世界の通貨・貨幣
○隊員お気に入りの世界のお菓子試食コーナー
○「ふるさと地球人」のダイジェスト版放映
○青森県から派遣されたJICA専門家パネル展示
○青森県から派遣された青年海外協力隊活動写真展示

などです。準備は大変でしたが、休みの日にみんなで集まってパネルを持ち寄ったり、地図を作ったりして楽しかったです。私は、青森ケーブルテレビで放映された「ふるさと地球人」１０回放送分（５時間分）を６０分のダイジェスト版にまとめなおしたのですが、一人一人の活動をまとめた番組は、秀逸で、どの回も見ていて引き込まれました。

当日午前中にNHKの取材が入ったり、東奥日報、朝日新聞にも取り上げられ、関心の高さを感じました。一日限りの開催でしたが、８０名以上の来場者がありました。

前日の準備と当日も多くのOBOGが集まりました。渡辺OB・乗田OB・高山OB・相馬OB・熊谷OG中村OB・上森OG、楽しかったですね。今年は、弘前・八戸で開催できたらと考えています。その際には、その地域のOBOGの方々ご協力お願いします。

手作りの展示が大好評

平成１９年度４次隊出発

大賀重樹（５－１　ホンデュラス　小学校教諭）

平成１９年度は、計４隊が出発しました。３月末に、シニア海外ボランティアでパプアニューギニア派遣の木立孝志さんと青年海外協力隊でエクアドルへ派遣される松尾隆司さんの壮行会を青森市で行いしました。木立さんはなんと３回目の派遣です。貫録十分で、松尾さんと職種も同じ自動車整備ということで、二人の息もぴったりでした。どうか、元気で活動してきてください。

出前講座の感想から

吉田可奈子 OG（17-3 パラグアイ　野菜栽培）が出前講座で青森中央高校に行きました。生徒のみなさんから感想をいただいたので紹介します。

「これからももっといろいろな物事に 関心を持ち続け、そして可奈子さんがおっしゃっていたように様々な経験ができる今の環境に精一杯感謝して、挑戦していきたいと思います。ありがとうございました。」（島川さん）

「直接、体験談を聞くことができ、とてもためになりました。国際ボランティアに少し興味があったので、可奈子さんの話を聞くことによってより現実的になりました。ありがとうございました。」(千葉さん)

「インターネットで事前学習はしていましたが、それでは分からなかったことが多く聞け、とても良かったです。現地の写真もたくさん見られ、興味深かったです。今度甘いマテ茶も飲んでみたいと思いました。」（田村さん）

JICA ボランティア春募集、体験談＆説明会を実施

熊谷彩子（１５－１　ブルキナファソ　稲作）

やはり、OBOG の話が一番です

4 月 8 日から 5 月 23 日までの JICA ボランティア春募集期間中、青森市、八戸市、弘前市にて体験談&説明会を実施しました。OBOG たくさんの方にお手伝い頂き、無事終えることができました。ありがとうございました。

弘前市は昨年度、弘前大学の学生中心に 30 名近くの参加者が集まったのですが、

今年はなぜか 10 名も集まりませんでした。事前に弘前市に行き、ポスターを貼ったり、弘前市、弘前ボランティア支援センターの方にも宣伝をお願いしたりと広報活動に取り組んだのですが、残念でした。八戸市は三浦 OB の助言もあり、会場を変更し実施しました。その効果もありたくさんの方が参加しました。

今回実施してみて思ったことは、すぐ応募したいと説明会に参加した人もいましたが、ポスターや CM を見て、「青年海外協力隊って？」「概要と実情を知りたい」と参加した人が多いようでした。いろいろな立場で参加した OBOG の話を聞いてまわっている人もいました。協力隊に参加したいという情熱を胸にすぐ応募する方法もありますが、こうして説明会に参加して経験者の実体験や現職参加制度など参加形態や制度をいろいろと聞き、青年海外協力隊をよく知ることも大事かと思います。私が協力隊に参加した時は神奈川県の説明会に行きましたが、来場者数も多く、消極的な私は（？）なかなか質問もできませんでした。地方の説明会は規模は小さいですが、その分密に OBOG とつながることができるメリットがあり私はこの説明会けっこう好きです。最近、応募数が少なくなっているという現状もありますが、これからも説明会で出会った候補者を長く温かくサポートしていければと思います。

シニア海外ボランティアの募集説明会も青森市で行いましたが、18 名とたくさんの方が参加し、興味をもって説明を聞いていました。協力隊経験者の皆さん、シニアでもう一度参加するのはいかがでしょうか。

今後の主な予定から

6 月 18 日（水）　平成 20 年度 1 次隊県庁表敬訪問＆壮行会(青森市　はなの舞　18:00～)
7 月 5 日（土）　JOCV 春募集 2 次選考試験対策勉強会（水産ビル 13:00～）
7 月 20 日（日）・21 日（月）　八甲田港フェスタ
8 月 17 日（日）　しんまちふれあい広場
9 月下旬　平成 20 年度 2 次隊県庁表敬訪問＆壮行会
9 月 27 日（土）　ミニインターナショナルフレンドシップフェア in 三沢
9 月 27 日（土）　生涯学習フェア 2008(青森県社会教育センター)

（編集後記）気がつくと平成も２０年度になりました。自分の隊次がどんどん過去のものになってきていますが、がんばらねばと、モチベーションをあげていきたいと思います。あまにゅうに対するご意見・ご感想をいつでも募集阿しております<momotarooga@ybb.ne.jp>

電話＆FAX での連絡は、国際協力推進員（熊谷）までお願いします。（電話０１７－７３５－２２４９　FAX０１７－７３５－２２５２）